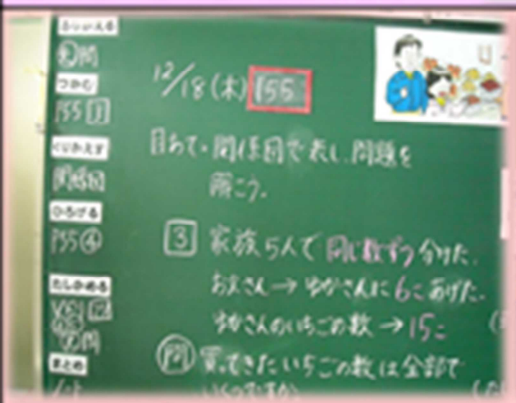
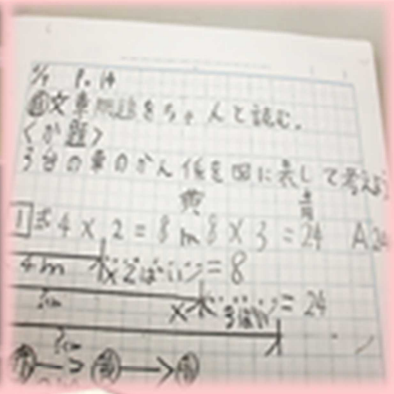
出合いをしかける3つの視点	具体的な支援例	久御山学園における効果的な実践例
身近なものを題材にする 身近な問題として捉えることで、学習に主体的に向かうことができます。	・実生活の状況やデータを用いる。 ・多様な考えがもてる場面を設定する。	「スマホ」を題材として取り上げ、「料金プランを比較し、どれがお得か考えよう」という課題を設定しました。連立方程式の学習ですが、自分たちに身近なことが絡められた課題設定により、生徒の意欲が増し、グループで活発に話し合う姿が見られました。
具体物やICTを活用し、視覚に訴える 具体的なイメージがもて、課題への興味・関心が高まります。	・具体物や新聞記事等を活用する。 ・NHK for school、動画サイト、ミライシード等を活用する。	問題場面の理解を促すためにプレゼンソフトで作成した図を示しました。問題文だけでは状況を把握しにくい子も、図をたよりに「何を求めるのか」「求めるために必要となる情報は何か」など、問題を理解し、解決のための糸口を探すことができました。
学習の見通しをもたせる 活動のイメージができ、学習に向かいやすくなります。	・単元の見通しをもたせる（「OO名人になろう！」「OOからのミッションをクリアしよう！」など） ・1時間の学習の流れを示す。 ・学習の流れや課題を確認後「自分めあて」を立てさせる。 ・学習のゴールを示す。（作品やレポートの完成図など） ※　示した見本にとらわれすぎないよう配慮する。	  算数の時間を中心に、1時間の学習の流れを示しています。この提示が習慣化され、児童からも「次は確かめ問題だね」という声が聞かれるようになり、主体的に学習に取り組む様子がうかがえます。 本時の課題を確認した後、児童一人一人が「自分めあて」を設定します（ノートの㊁部分）。その時間の課題解決のために自分は何を頑張るのかを考え、それをノートに書くことで、学習に向かう意欲が高まり、主体的な学びにつながりました。